







項 目	内 容
<b>ZEHビルダー登録に8割が感心</b>	<p>JBN・全国工務店協会は、会員工務店を対象に行った「JBN・BELS（建築物省エネ性能表示制度）」についての簡易アンケート」の集計結果を取り纏めた。それによると「ZEHビルダー登録制度に登録済み」は250社で有効回答の57%だった、これに「これから登録」の25%を合わせた82%が登録に関心を示している。</p> <p>このアンケートはJBNが正会員の工務店約2500社を対象に1月13日から25日に実施したもので、有効回答は468社、15%だった、調査対象機関は2015年4月から16年3月の一年間。</p> <p>アンケートでは、新断熱については、ZEH基準が22%、等級4が63%、等級3以下が11%だった。</p> <p>また、一次エネルギー消費性能では、等級5が35%等級4が39%等級3以下が5%と省エネ性能について感心が高く、高いレベルにあることが分かった。太陽光発電搭載は27%、そのうちZEHもしくはZエヤリーZEHは9%、非搭載は63%出、太陽光発電の搭載率は大手に比べると低そうだ。ZEHビルダー登録制度は、登録済が57%、これからが25%、予定なしが18%で、この制度への関心は高い。BELS表示割合の予想は平均で16年16%。17年度30%、18年度40%、19年度48%、20年度60%となっている。回答のあった468社の15年度の元請け新築戸建ての年間着工数は5774戸、単純平均では1社12.5戸になる。省エネへの取組に積極的な工務店から回答が多かったことでZEH対応断熱性能も高い水準となったものと見られる</p>
<b>累計76万と超に 長期優良住宅の認定実績</b>	<p>長期優良住宅と認定低炭素建築物 フラット35の申請戸数について直近の件数が公表された。</p> <p>長期優良住宅の認定実績は2016年10月が一戸建て9438戸、共同113戸、11月は同9383戸 同48戸12月は同9245戸 同718戸。制度運用開始からの累計は同76万1312戸、同1万8523戸、総戸数は78万135戸となった。</p> <p>認定低炭素建築物は、16年10月が同366戸同186戸 11月が同395戸 同365戸 12月が同390戸 同448戸。制度運用開始からの累計は同1万2009戸 同9253戸 その他複合件低物6棟、非住宅建築物14棟で、総件数は2万1282件であった。</p> <p>また、フラット35（買取型）の申請戸数は、16年10月~12月で3万3003戸（前年同期比21.5%増）、実績戸数は2万6875戸（同25%増）となり、実績金額は7498億8155万円（同25.8%増）となった</p> <p>フラット35は（保証型）は同1617戸、実績戸数は439戸 実績金額は127億2792万円となった。</p>
<b>スタイロフォームなど値上げ（3月21に出荷分から）</b>	<p>ダウ化工（東京都、杉山隆博社長）は、押出発泡ポリスチレン断熱材「スタイロフォーム」と「ウッドラック」を値上げする。3月20日以降に出荷するスタイロフォーム、ウッドラックの全製品が対象で、値上げ幅は15%。これは、昨年末からの原油高に加え、ベンゼンやスチレンモノマーなどの基礎資材の価格が急激に値上がりし、スタイロフォームの主原料であるポリスチレンなどが高騰したことによるもの。</p> <p>同社では、「製造部門の合理化、経費削減や徹底したコスト削減に取り組んできたが、自助努力の範囲をはるかに超えた。品質を安定供給を維持する為に、値上げを決めた」としている。</p>
<b>国産材基材が1年で倍増</b>	<p>日本複合・防音床材工業会が発表した、2016年の複合フローリングの生産量は2055万3000坪（前年比4.4%増）となり、住宅着工の増加に伴い、堅調な増加ペースとなった。また、複合フローリングの市場そのものはこの一年で大きく変貌し、基材では国産材ベースのものが、表面化粧材ではシートタイプが大幅増となっている。</p> <p>国産材基材（国産材合板単相、国産材合板とMDFの複合）は357万500坪（同101.3%増）とこの一年で倍増した、全生産量に締める比率は17.4%と輸入合板比率に多く及ばないが、15年の9%からは8.4ポイント上昇している。</p> <p>杉や桧、トド松などの国産材合板に、表面平滑性を出すための薄物MDFを組み合わせた国産材基材は、円安や産地高による輸入合板のコスト上昇と木材利用ポイント屋や企業の環境意識の高まりにより、ここ1~2年で急速に生産が増えている。複合フローリングは生産量の約8割が床暖房用とされ、この分野は基材に輸入合板が使われていたが、近年のメーカー技術の工場、国産材基材でも床暖房で使える製品が増えているという見方が多い。円安で輸入合板のコストが高止まりしている事も国産材基材化に追い風となっている。パーティクルボードを基材としたタイプ模生産量が166万7400坪（同164.5%増）と前年比1.6倍の伸び。工口製品である上に、コスト的にも優位性がある点が評価されている。</p> <p>表面基材は年々シート比率が上昇している。生産量の内、ツキ板を表面材にしたものは868万700坪（同6%減）と減少したが、シート材を表面材に利用した特殊加工化粧は1187万2300坪（同13.6%増）と二桁の伸び。全生産量に引き得るシート比率は57.8%で、前年比では4.8ポイント上昇している。</p> <p>SNSの流行などもあり、木質建材にもインテリア性が強く求められるようになってきている。そのためトレンド変化に迅速かつ柔軟にでき、幅広フロアーにも対応し易いシートタイプに人気が集まる傾向が見られる。</p>
<b>表示説明</b>	 <b>値下げ</b>  <b>横ばい</b>  <b>値上げ</b>
<b>市況状況</b>	<p>ラワン薄ベニヤ . . . . . </p> <p>ラワン正寸12mmT2 . . . . . </p> <p>針葉樹 12mm 3x6 . . . . . </p>